

<参考資料>

I. 病院に勤務する歯科医師調査票における自由回答に関するテキストマイニング分析

●分析方法の概要

1. 分析対象：回収できた 2,914 件の調査票の自由回答欄に記入があった 948 件（32.5%）

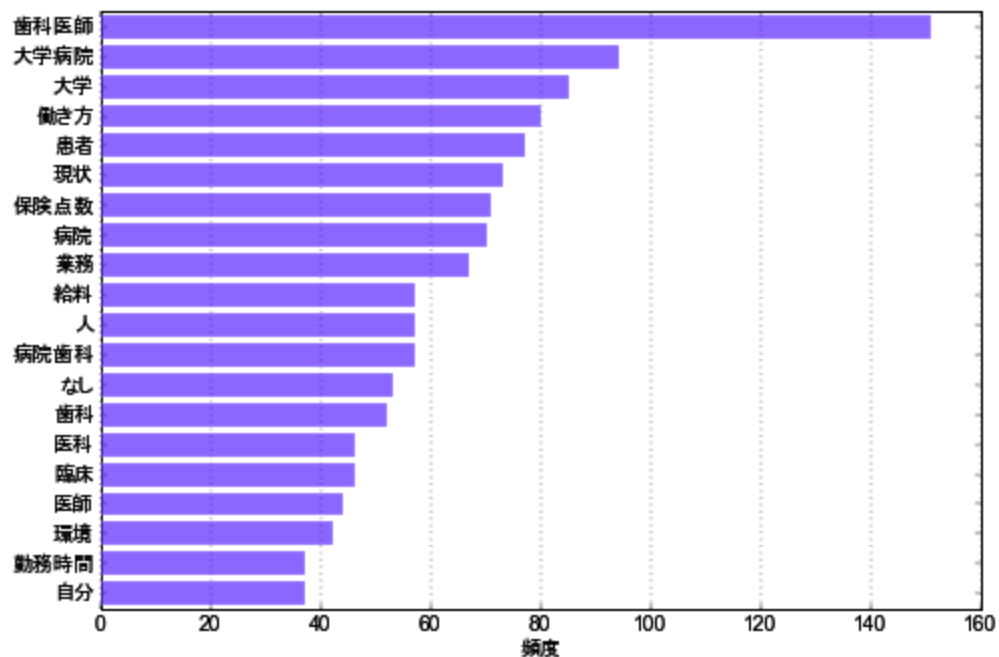
2. 分析手法：テキストマイニング

特に、単語頻度分析と文章分析を実施

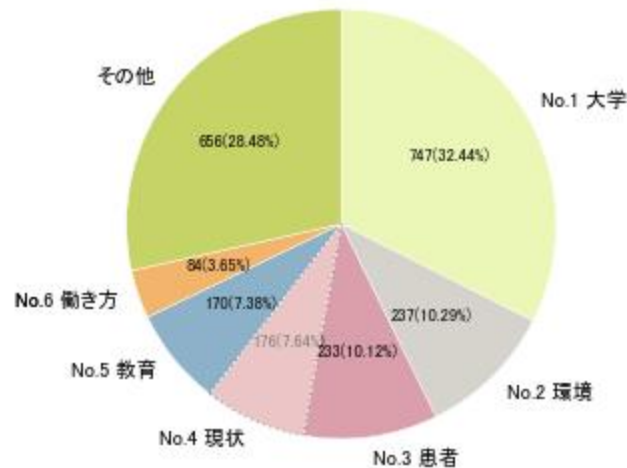
3. 使用ソフトウェア：Text Mining Studio（NTT データ数理システム）

●分析結果

1. 単語頻度分析



2. 文章分析



(1) 文書分析での結果に基づくグループ1「大学」に関連する主要意見一覧

大学で勤務をつづけるなら、研究・教育・診療は必須の業務であり、それに対する対価（給料）がほしい。
大学の労働規約での終業時間と、病院での実際の終業時間との間に差異がある。
もっと多くの方が大学に勤務し、業務を分け合わないと本当に重要な核心をつくような研究は行われず、内容の薄い研究ばかりになってしまう。
病院で勤務しているが、保険点数などにおける病院独自の優遇処置や入院などに対するハードルを下げないと、病院における歯科が消滅してしまう。
病院（大学）勤務であると医師は外勤先での収入で生活できている面が多いが、歯科医師はその場合が少ない（外勤先での収入で生活が難しく）。
病院歯科で勤務する場合、診療時間以外での待機も多く（歯科医師の数が少ないため）、保険点数の違いもあり医師との給料の格差もひどい。
大学に勤務している歯科医師は、特に業務が集中している者と、していない者との差が激しく、有休、代休が取りにくい状況にある。
私は大学に勤務する歯科医師ではあるが、研究者でもある。
大学や病院に残る人が少なく、QOLが保てない。
病院に長く勤務すると開業歯科医師での失敗した症例を治療することが多く、そういった症例にあたると病院歯科での勤務に対する給料の面での待遇について疑問に思う。

勤務時間だけを考えると、大学や病院の方が働きやすい。
時間外労働と自己研修の境界があいまいな部分がある。
大学病院に勤務しているが、大学からの給与が0円というのは労働をする上で考える部分がある。
日本の公立病院の60%は赤字経営であり、病院で勤務する私たちも収益増加が求められる。
研究に力を入れたいので大学に残るという選択をしているが、大学の給料だけで生計が立てられないので、他にもアルバイトとして出勤しないといけないという現実。
大学の給料が安い
大学から給料が出ないため、土日仕事をするしなければならない。
病院歯科に勤務する人の給与を上げて欲しい。
大学病院での勤務は医師と同等の業務があるため、教室などのポストについても医師と対等な待遇を望む。
大学での勤務は、診療時間だけではなく、研究、会議など、診療時間外、勤務外の時間も多。
総合病院の歯科口腔外科で勤務しているが、仕事量が多く大変なわりに給料は低い（医師と比べてしまうと）。
医科歯科連携は重要だが、大学及び病院は評価しても、学部からはそれほど評価されない。
生活していくのにもう少しお金が必要なので、大学から給料が出てほしい。
大学病院で研究に費やす時間（夜）も業務としてカウントしてもらい、勤務の手当が必要。
このままでは病院での勤務を希望する若い世代がいなくなってしまうのではないかとされる。
病院から見てもっと魅力的に映る保険点数の設定を望む。
大学に教員として勤務する歯科医師において、ライフワークバランスどころか、業務量の多さで質の低い仕事をしている人が多い。
育児のため、時短で勤務している医科の女医もいるが、大学との医局の取り決めのようで、皆が使える制度でない。

（２） 文書分析での結果に基づくグループ２「環境」に関する主要意見一覧

女性が子育てしながら働ける（パートや病院歯科等）の環境を充実させてほしい。
現在の職場は異常な環境で、人間関係も含め、良好とはいえない。
職場によっては夜間遅くまで残らないといけないような環境であったり、上司が帰らなければ帰りづらいような話しも耳にする。
女性の口腔外科医が仕事をしやすい環境になればよいと思う。

女性が働きやすい環境を整えてほしい。
子どもをもちたくても、このような環境では非常に難しい。
勤務医として安定して働き始めると入院患者の対応もあり、安易に休みは取れず、また女性にとってはライフワークバランスがとりにくい環境である。
医師は卒後すぐではなく働いて数年後に大学院に入る流れがあるのに対して、歯科は卒後すぐ院入学の流れがあるので、社会人大学院生や子どもがいても大学院に入れるような環境であれば、女性でも研究したい方が増えると思う。
本院は保育施設併設、複数歯科医師が勤務しているため、私のような子育てしながら働く人間にとって、とても心強く働きやすい環境。
常勤だから女性が子育てを理由にするのはおかしいという風潮がある。
親の介護、子育て、裁判員などで休みが必要となった時に、現状では職場を離れることが困難である。
国立大学では時間にフレキシブルであり、女性としては働きやすい職場といえるかもしれない。
女性が産休などした後に復帰でき、女性に優しい職場があればいいと日々思う。
現在は改善された職場も多いが、育児しながら復職する女医が受け入れやすい環境になるよう働きかけ改革を実施してほしい。
職場に保育園を設置したり、子育てとの両立を皆が認めるようになってもらえればと思う。
出向先の病院は、大学とは正反対の女性を大切にしてくれる職場だったので、3人の子育てしながら勤務を続けることができた。
出産、子育てを終え、腕や肩に症状が出るようなことがあっても、現役で働ける職場があればと思う。
女性が結婚後も、出産・子育てをしながら診療をつづけていけるシステム作りをすすめてほしい。
大学病院に勤務中であるが、事務処理（カルテなど）の割合が大きく時間外労働も多いため、効率的に仕事ができる環境を作ってほしい。
若手の未来をつぶさない働く環境がほしい。
適切な診療を行いやすい環境を整えていただきたい。
2、3日の連続した休暇を、自由にとれるような環境となれば、海外旅行に行ける。
周りの上司も同じ環境にいるので仕方がないのかとも思う。
有給休暇を取りやすい環境を作ってほしい。
男女を問わず子育て世代が活発に働ける環境になることを強く願っている（きっと介護世代に通ずることと思う）。
歯科医師にとってより良い環境が整備されることを望む。

ただでさえ男性の立場が強い環境の中で働くには男性と同じ仕事をしてこそ、男性より認められるように感じる。
非常に不安定な環境だと思う。
我々が今後努力するとともに、もっと研究分野が発展していくような環境をつくっていただくことを望む。

(3) 文書分析での結果に基づくグループ3「患者」に関連する主要意見一覧

患者一人毎の時間を短縮しないと多くの患者を診察できず、収益が増加しない。
患者と向き合える時間を増やしたい。
曜日によって患者の来院数、診察数が異なる。
紹介患者も多く、難症例として一人の患者に要する時間が増え、研究や自己研修に取り組む時間があまり取れないのが、現在の問題点と考える。
補綴物だけでも、患者負担割合が増えると患者の意識も上がるかもしれない。
保険診療報酬が低過ぎるためにたくさんの患者を診療しなければならず、現場は疲弊している。
患者の顔を見て話す時間、口腔に触れる時間が減っている。
これだけ働いて（患者がいて）、なぜ赤字になるのか、わからない。
患者を地域で孤立させない社会システムが必要。
歯科医師数に対し、患者が多すぎる。
患者が受診して良かったと思えるような診療を可能な限り提供したい。
歯科受診の患者は高齢化している。
やっていることに対して、評価してくれる患者と、そうでない患者の差が大きく感じる。
人任せな患者が多ければ、やりがいも感じなくなってしまうので、なんとか上手に対応して、互いにやりがいのあるような働き方をしたい。
かなりシビアな診療を要求されることもある。
歯科医師が行う必要性がないものまで行うこともある（例：患者の移動）。
患者のために働くべきである。
当然のように患者は配当され、医局業務などで夜20時～21時まで拘束され、自分の仕事や診療準備もあるのに帰宅できる訳もなく、何か追加手当が出る訳でもない。
歯科医師の診療において、歯科衛生士や歯科技工士に分担可能と考えられる診療内容、説明（患者、家族）記録は多いと思っている。
主に院内の患者に対応しているため、常に医科側の情報をupdateしながら身に付けなければならない。
急変など患者に対する対応は家庭をもってから、完璧に行うのは難しいと思う。
患者（家族）へ同意を得なければならない（説明しなくてはならない）書類が多く診療時間（診療可能な患者人数）を圧迫している。

急患や大変な患者がいなければ、夕方5：30くらいまでには診療が終わるのでその後ゆっくりカルテやファイル書きが月末、月初めにはレセプト業務ができる（歯科のスタッフだけでレセプト業務を行っているのだ）。

（４） 文書分析での結果に基づくグループ４「現状」に関連する主要意見一覧

国は現状をよく把握し、公平な歯科治療が行えるよう、評価してほしいと思う。
今やクリニックでは患者獲得のために夜間診療を余儀なくされる現状では、疲弊するだけで未来の見えない歯科業界と思える。
また体力的にも現状がM a x である。
他の会社などは卒何年でも勤務１年以上に達すれば育休が可能であるのに対し、この現状は若い女性歯科の働く意欲を下げる状況だと考える。
現状では、カウンセリングも十分にできない。
自己研修の時間は、業務時間外に取らざるを得ないのが現状である。
現状は患者数＝保険点数＝長時間労働＝医師体調不良につながっている気がする。
現在外来診療がメインとなり、研究活動にたくさんの時間をさけていない現状である。
現状は変わらない。
根治よりも抜いて義歯の方が保険点数が高く、チェアタイムも短い現状頑張っている。
大学病院では育児休暇が取りにくいのが、現状である。
博士号や認定医の取得、インプラントなどの高度技術の取得はできない仕組みになっているのが現状である。
断固として否定的な現状である。
放射線の専門医だが、現状では在宅での読像業務が“不可”である。
自己研鑽という建前で働いているのが現状。
治療の質を担保するためにも、保険診療の報酬を現状の３倍以上にしていきたい。
現状、業務・治療の半数は障害者歯科治療になっている。
保険点数が低いため、長く働くしか選択できない現状。
現在、保険診療を行っているが、現状の診療報酬だと患者の数を多く診なければならず、一人あたりの治療時間や治療の質を低下せざるを得なくなってしまう。
質より数をこなさなければならぬ現状の歯科治療は、今も変わらないか。
歯科のコスト面で一人しか雇えないのが現状と考える。
結局休みはあるが、休みの日に仕事をしないと終わらないのが現状。
大学では、研究業績、教育業績なども必要になるが、勤務時間内に全てこなすのは難しく、休日出勤をしなければ成り立たないのが現状である。
訪問診療日を設けて行うことになるが、嚥下の患者だけでは赤字になってしまう現状がある。
有給休暇や、休日勤務の振替休も、現状では取得が困難なことが多い。

夜間、休日などの救急外来も少ない人数で回しているため、休めない現状にある。

(5) 文書分析での結果に基づくグループ5「教育」に関連する主要意見一覧

時間内で臨床、教育、研究をするのは絶対無理だと思う。

臨床、研究、教育を両立していくことは、時間的に大変だと思う。

臨床、研究、教育をきちんと分けてもいいのではと思う。

研究、教育、臨床をバランス良く行いたいと思う。

大学人は研究、教育、臨床の3本柱で自分自身はそれなりに時間を作って動いていると思うが、全てを行わないといけない。

研究、教育、臨床を各Drでバランスを決められたらよい。

歯科医師というよりも、現在は大学教員であり、教育、臨床、研究（人工知能関係）のバランスを保つことが困難になりつつある。

予算の削減（文科省）が大きく影響しており、教育や臨床に十分な労力を割こうとすれば、身分の保証があやうくなってしまうがちなところ。

大学病院においては、臨床中心の歯科医師と、臨床・教育を半々で行うもの、臨床・教育・研究（成果を出している）で行うもの、3パターンのライフスタイルを明確に分けて、別個の評価基準を設けるべきである。

臨床・研究・教育を全て行わなくてはならない。

研究、教育、臨床をこなしながらその他の仕事を行うとなると、日常の業務時間はかなり長くならざるを得ない。

診療に加え、教育・研究・運営の負担が大きい。

昼間は教育及び診療に費やすため、研究及び雑用は夜間または休日に行わざるを得ず、休日を増やしたところで平日夜間にその負担が増すだけである。

日本は、診療、教育、研究と一人にかかる負担が多すぎる。

教育機関でもある大学は、臨床と研究と教育があるため、残業時間が多くブラックな労働環境であると思う。

大学病院において、本来事務方が行うべき業務が歯科医師サイドに丸投げされており、本来行うべき臨床、教育、研究業務に支障が生じている。

大学教員であり、教育、研究、臨床に各々最大限の努力をして、勤務することが求められるため。

大学病院関係に勤務しているが（臨床）・教育・研究を十分に確保できない。

特に大学は、研究、臨床、教育の全てを行い、おかしい状態である。

歯科医師で大学勤務を継続するには「臨床・教育・研究」全てを問われるが、それらを成立させるのは非常に困難であり、また可能な人はごく一握りの人間である。

大学勤務者として、臨床、教育、研究を平等にこなすことは、今の状況（時間）では困難。

可能であれば、教育と診療と研究をある程度、分業できればと思う。

教育や研究は診察時間が終了後となるためそれだけ拘束時間は延びる。
平日だけでは教育の準備や研究の時間が取れずに休日にも働くことになる。
大学病院のあり方をぜひもっと働きやすく、教育とか大事なことがまわるように人件費とか見直していただきたい。
歯科衛生士に対して、もう少し教育の場を広げるべきである。
教育、研究、その他管理業務が多く、休日に仕事をしないと困ることが多い。
診療を行う歯科医師は余っているが、実際、研究や教育をする歯科医師も余っている（ポストが足りない）。
大学病院勤務のため、外来、診療、教育、会議等多忙である。

（６）文書分析での結果に基づくグループ６「働き方」に関連する主要意見一覧

働き方について不満はない。
口腔外科医は体力的・時間拘束（オンコール）もあり、将来的には働き方の改善をしていかなないと大変な場合が多いと思う。
なかなか定型的な働き方は難しい。
現在の働き方に満足している。
結果的に過労になると思う。
働き方が個人主体によるものでなく、施設の経済収支により影響を受けている。
歯科医師の働き方が愛をもてなくなっていると思う。
休憩時間がしっかり確保できる働き方が理想だ。
働き方どころはキャリアアップで決まる。
働き方を考える前に、歯科疾患のあり方を考えてほしい。
時代に沿った働き方が必要である。
女性口腔外科医の働き方に対する意見がどんどんあがり、環境改善すればいいと思う。
各歯科医師が自身で納得いくように働き方を選べればよいと考える。
通常の歯科診療と異なるため、同一で働き方を変えるのには難しい。
働き方をいう程余裕がないのではないかな。
一律的でなく働き方の多様性を求める。
働き方が悪くなってあたりまえと思う。
口腔外科手術、急患対応（２４h）を月の半分行っているが、一般歯科医院との働き方とも異なり、重労働とも思う時があるがやりがいも多く、総合病院で働くためには必要な働き方だとも思う。
これからの歯科医師は自身の意志で働き方を選択できる世であればと願う。
職務上働き方を変えるというのは、難しい部分もある。
もっと働き方を変えてほしい。
自身の働き方には不満はない。

現況の働き方では長くは続けられないと考えている。
働き方のシステム、考え方を根本的に変えるべきである。
歯科医師に限らず、働き方が今より改善していただけるよう迅速に対応してもらえると助かる。

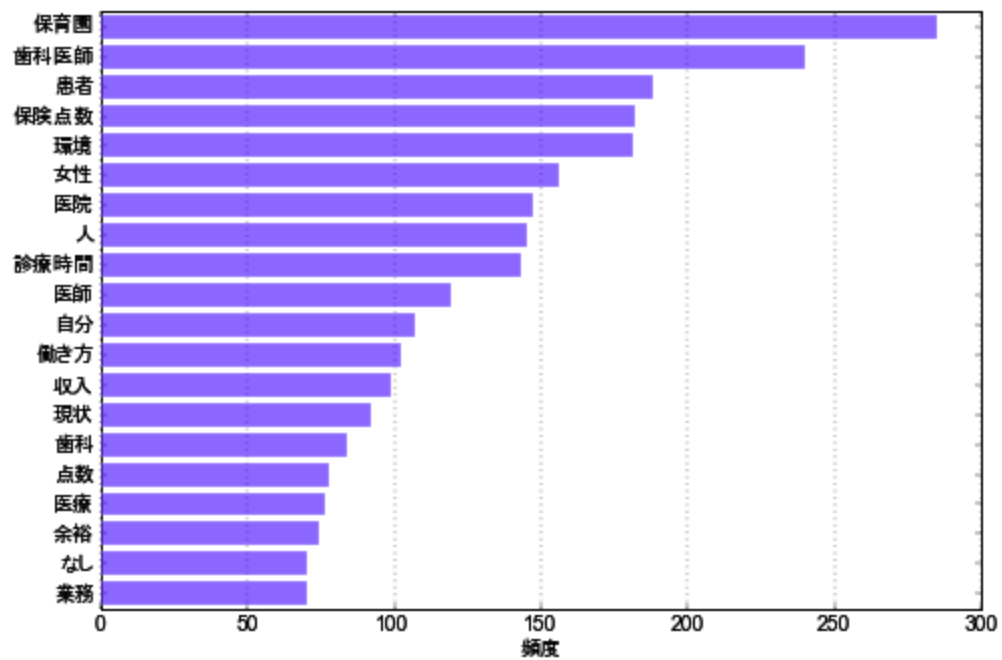
Ⅱ. 歯科診療所に勤務する歯科医師調査票における自由回答に関するテキストマイニング分析

●分析方法の概要

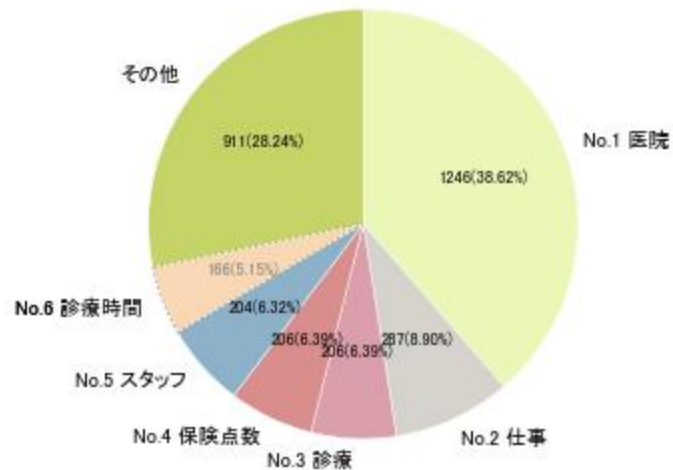
1. 分析対象：回収できた 3,782 件の調査票のうち自由回答欄に記入があった 1,203 件 (31.8%)
2. 分析手法：テキストマイニング
特に、単語頻度分析と文章分析を実施
3. 使用ソフトウェア：Text Mining Studio (NTT データ数理システム)

●分析結果

1. 単語頻度分析



2. 文章分析



(1) 文書分析での結果に基づくグループ1「医院」に関連する主要意見一覧

休日でも学会やセミナーに参加することが多いため1日休みの日はあまりない。
休みを多く取っている歯科診療所は患者からそっぽを向かれる。
自営業なので休みをとろうと思えばとれるが、経営上働く時間を減らしたくない。
休みがほしい。
休みは必ず取り、しっかり休むようにしなくてはならない。
まとまった休みが欲しい。
どうせ低賃金なら固定給で休みが多い方がいい。
単独主治医制であれば休みもとりにくく、他の誰かに代わってもらえない。
祝日のある週は木曜休みを返上しているので、経営的に苦しくなければ本当は休みにしたい。
開設者の場合、なかなか長期（一週間程度）休暇が取れない。
歯科医師になってから週1日以上休みを取ったことがない。
休みを増やしてもやっていける方策があったらいい。
歯科医院の休みの日に私が1人で訪問をやっている。
非常勤であると体調を崩したりしても休暇がとりにくい（現在、複数の医院で非常勤のため）。
有資格者はそう簡単に代えがきかないので、休みを取るのは難しいが、これはどんな職種でも同じである。

休みの取り方はスタッフと相談しながらあるいは公職等と調整しながら自然に組み立てられていく。
開業医などにも1日単位で派遣してくれる歯科医師がいれば、もっと働きたい女性の子育て中の歯科医が戻りやすい環境になると思うし、開業医側も休暇が取りやすくなり、win-winの関係が構築できると思う。
休診時も公務が重なる事が多く、休みが取れない状況である。
働き方改革というが、十分な報酬なしに休みは取れない。
休みが取れないこと、保障が無いこと、賃金が仕事内容に対し安いこと、勤務時間が長いことなど、改善すべき点は多いと思う。
診療時間内に時間を取られるとストレスとなる。
歯科医師の乱立により、日曜のみの休みで働いてはいるものの、なかなか余裕のある生活ができていない。
休日にも急患対応しているので休みはほとんどなし。
歯科の特性上、予約がいっぱいで急な休みに対処できないためです。
もう少し休みが欲しいが生活のため働いている。
日曜祝日以外、木曜の午後は休みとしているが、現実には仕事関係の雑用や訪問診療のために半日休むことはほとんどない。

(2) 文書分析での結果に基づくグループ2「仕事」に関する主要意見一覧

人の助けは借りながら自分の仕事を続ける。
仕事に対する意欲が人によってかなり個人差があると思う。
女医の多くは小児歯科専門医や小児を得意とする人であるが、保育園に預けている時間に限りがあるため、早めに仕事を切り上げざるを得ない。
人との接触の仕事なので、このぐらいの時間で、今心筋梗塞を患ったので、これが最後という気持ちで患者と接触していきたいと思う。
仕事を他の人に分担することが困難な職業と思う。
必然として自分の仕事が増える(無理な自費のすすめはしたくない)。
資格があり、自分で開院しているため、休診日など自分で決められ、ペースも自分で考えられるので自分にとっては働きやすい仕事と考えている。
自分で考えない、受け身な人が圧倒的に多い。
若いうちは、勤務医として長時間働けるが、だんだんと自分で開業しなければいけない感じになる。
人を育てて組織作りができれば少しずつ自分のために時間を作りたいと思う。
女医の友人で仕事をバリバリしている人は、実家の親に子どもを見てもらっているケースがほとんどである。

この仕事が好きだから続ける事が出来るが決して楽な仕事ではなく、自分の力量に対する評価は非常に低いと思う。
自分が勤務医の頃、家族子ども3人がインフルエンザで休んだら穴あけすぎとなじられ、有給など存在しない中15年勤めたので、そのようなクリニックを指導するような機関が欲しいと思った。
社会に貢献する為に一生懸命仕事をする事だと思って頑張っているが最近とても疲れてきており、いつまで続くのか不安だ。
歯科医師会への出務etcもこれに加わり更に休日が減ってしまうが、誰かがする仕事のため欠席することは自分自身できない。
歯科医師は全身を使って行う仕事だ。
肉体労働である仕事であることの意識が不足しているように感じる。
事務作業的な仕事が減らせれば治療そのものに集中でき、仕事がやり易くなるのでは？
有給休暇などとしている歯科医師の友人をみた事がなく、仕事としては劣悪である。
休日が欲しいならこの仕事をするなということですけど…がんばる。
診療外の仕事も多く、休診日にも仕事をする事が多々ある。
開業医は診療医師以外の事務的な仕事が多い。
私自身は、9:00~18:00、週4、残り3日を麻酔（鎮静）の仕事にあてている。
正直休みのない週も出てくるので、妊娠・出産後考えた時は、働きやすい（時間を調整できる）麻酔の仕事をメインにするかもしれない。
仕事は肉体的にも精神的にも時間的にもある程度セーブすることになった。
なかなか時間では割り切れない仕事だと思う。
歯科医師の仕事は重労働だと思う。
仕事帰りの患者さんが夕方に集中するため、残業や仕事が増える傾向にある。
男性主体で医療業界が作られてきたせいか、仕事に専任（専念）しないと社会で通用しないことが息苦しい。

(3) 文書分析での結果に基づくグループ3「診療」に関連する主要意見一覧

水・土・半日診療、木日祝休診でずいぶん楽になったが、全体的に他業種と比較して就労時間が長いのが現状と思われる。
私も歯科医師としてのプライドはあるが患者さんとは同じ目線で診療するようにしている。
最近、夕方5時までの診療に変更した。
診療に集中したい。
現在、高齢で1人で診療などしていますので長時間の働きはできない。
もっと簡素化できれば診療に時間を費やせると思う。
一人の患者にじっくり時間をかけて診療することが難しい。
職人と同じく、歯科医師はより良い義歯を補綴と思って日々診療にあたっている。
日常診療に追われて自己研鑽に時間が取れない。
このような診療を続けるのは、特に女性には難しいのではないかな。
患者に渡すペーパーに時間をとられ、できる限り患者の診療に従事したく思う。
とにかく長時間診療になりがちな時代だ。
日曜診療が多くなってきた。
診療と患者への対話に時間をもらいたい。
休暇時の交代職員を常時雇用するためには、更なる収益が必要となり、診療の品質を損ないかねない。
結果、肉体労働なので、年を取れば、長時間診療は困難になる。
毎月、不安を抱えながらの診療だ。
現状維持での診療を継続していくが、後継がないこともあり、いつまで維持できるか決めなければならない（現診療所での診療）。
休日においては、スポーツディンティストとしての指導にもおもむいているため、今後診療の中に取り組んでいく予定である。
院内保育があったり、また、育児期間のみ優先的にさせていただけるような保健所の診療など、非常勤のような働き場があればよかったと思う。
休日の診療はなるべくひかえたい（代診は除く）。
患者さん一人一人に十分な時間を使って、ゆっくり診療するスタイルを目標にする。
良心的な診療をすると他から患者が流れてくるので、結局時間が長くなる。
歯科衛生師が辞めてから次がなかなか見つからず歯科助手と二人で診療している。
平日は朝8時から夜までほとんど昼休みもなくずっと診療をしている。
施設からの要望もあって調整して診療にあたっている。
将来午前中の診療で永く続けたいと考えている。
肝心の診療の時間を削がれる。
結果として多くの時間診療して、患者を診なければならない環境にあると思う。

(4) 文書分析での結果に基づくグループ4「保険点数」に関連する主要意見一覧

診療報酬を上げて欲しい。
診療報酬の見直しをして欲しい。
保険点数が低すぎてより長時間門戸を開いて患者を獲得しないと食べていけない。
診療報酬が実働に見合っていないさすぎる。
診療報酬の増額、保健診療の見直しも考えるべき。
診療報酬が低すぎる。
給料が高いから社会保険も厚生年金も入れさせないと言われ、有り得ないので、そのような調査を行政機関がしっかりやってほしいと思う。
高齢になれば実労働が減じるのは当然で保険点数はキャリアによって加算されることを望む。
男性女性に関わらず小児歯科を専門とする歯科医師が活躍できる社会環境に構築することができれば結果的に医療費の削減に貢献できると個人的には思っている。
診療報酬が上昇しない限り、ブラックな働き方をせざるを得ない。
保険点数がもう少し何とかならないのか？
働いた分より給料は安いと思う。
身体を病まずに休憩しながら働ける環境と、十分な診療報酬がある程度保証されるとよいと思う。
診療報酬が低すぎるため、長時間労働をせざるを得ないのが残念。
給料に関しは、それに見合った働きをせねばと思えるだけの額と思われる。
専門医を取得しているが、全国で保険点数が変わらないので上げて欲しい。
診療報酬の大幅な引き上げがない限り無理。
毎月平均点を気にしながら診療一部の診療報酬の見直しも必要と思われる。
精神的ストレスのかかる業職であるにしては、保険点数が低い。

(5) 文書分析での結果に基づくグループ5「スタッフ」に関連する主要意見一覧

若いスタッフも働きやすいように考えている。
いつも私を助けるスタッフを守ること（労働条件・時間）こそ大切だと思う。
パソコンでの入力をスタッフにお願いしているので（私が、ポチンポチンとしか入力できず時間がかかるので）連携プレーが大変。
スタッフの給与安定のために保険点数をできれば上げてほしい。
スタッフの少ない小規模診療所では新設された施設基準を満たすことができず、さらに低点数になっていく。
スタッフとチーム医療という考え方が大切と考える。
人手不足でスタッフも集まらない。
保険診療では、スタッフの満足いく給与を出す事が難しい。

スタッフに任せるのであれば、それなりの教育が必要だろう。
歯科医療を提供できる医療環境の整備と、それを支えるスタッフの教育水準の高さが求められる。
スタッフの給与計算、研修会参加、歯科医師会活動は夜間または休日にやるしかない。
スタッフが多いと業務の分担ができる。
勤務医とちがい開業医は、スタッフも抱えているため休めない。
来年早々から閉院の予定を考慮しており、順次患者数も考えスタッフの退職も考慮し、機具全てでも終わりに向かって物事を進めている。
地域からの要望に答えようとすると身体がもたないし、スタッフの労働条件ともかち合ってしまう。
今後もスタッフと協力をして地域医療に貢献できればと感じる。
いわゆる自営業の場合にはスタッフには時短、有給休暇などのシステムを導入しても自分がとるわけにはいかない（ドクター1人のため休診になるので）。
経営者でもあり少人数のスタッフでやっている所以自分の負担も多いが仕方ないと思っている。
日数も短く、時間が出来ればスタッフ、特に歯科衛生士の確保にも有利だと考えられる。
休みの取り方はスタッフと相談しながらあるいは公職等と調整しながら自然に組み立てられていく。
8：30に家を出て20：00過ぎに帰宅だが患者さんの予約状況やスタッフの雇用、また必要経費のため開設者である自分が働き方を変える（減らす）ことは不可能。
スタッフの有給休暇を確保するためには、その分は多くは自分が働く。
一般歯科開業医として家族、スタッフ、患者、出入りの業者まで含めて満足の行く診療体制を作るためには、自分の時間を多く費やす必要があるし、週休2日、1日8時間労働以外に何の努力もしなければ、それ相応のレベルにしかならないと思う。
現在、管理者になったので産休育休はスタッフの希望どおりにしているが、個人経営なので1人予備スタッフは雇えない。
スタッフの労働条件を守るために、こちらの負担が過大すぎる。
一般開業の歯科医師については、医療以外はスタッフまかせのDr.が多い印象を持っている。

（6）文書分析での結果に基づくグループ6「診療時間」に関連する主要意見一覧

利益率が良ければ待遇改善し、なおかつ歯科医師の勤務時間を短くすることは可能と思われる。
歯科技工士学校の閉校、歯科衛生士学校の定員割れ、これでは診療時間を増やすしかない。

診療時間が1日10時間くらいが当たり前で診療後に会議や委員会があり事務があり休日は講習会も多い。
勤務時間が長い。
休日当番の診療時間は2年前まで9～18時だった。
拘束時間が長い割に成果が出ない時代になっている。
歯科医師になった当時、労働時間の制限などあってないようなものだった。
診療時間は短縮した。
労働時間の短縮および休業の取得は有り得ない。
技工物を作る時間の勤務時間と時間外業務。
拘束時間が長く、患者が来院した夕方には体力消耗。
患者のいない時間でも休憩するわけにもいかず、拘束時間が長いのも特徴だと思う。
診療時間の延長を余儀なくされる。
開設管理者のため、診療時間が朝8:00～夜、その間休み時間は1時間程度。
開業医の多くが診療時間は5時間くらい。
医療従事者なので、どうしても拘束時間が長くなってしまうのはある程度は仕方ないことだと思っている。
ただ、各々で上手に勤務時間の管理を行っていくことが必須だと思う。
勤務時間が少なくて済む混合診療にするかです。
自営業のため働く時間、診療時間を自由に決められる。
勤務時間は減らしたいが、個人開業医であるため、治療時間短縮は経営上困難。
1日の診療時間を短くしたい。
もう少し勤務時間を減らしたいが、減収はできない。
一度退職すると、次の就職を探すのが少ないし難しく、育児期間なら特に診療時間が遅くなる場合は考えてしまう。
診療時間より時間を要する書類の作成の義務化はいかがなものかと思われる。
労働時間が長い。
診療時間が少なくなる。
勤務日数を考えるよりは勤務時間を考えてほしい。
もう少し診療時間を少なくしても経営できる保険点数にしてほしい。
1日の労働時間の長期化、または1人あたりの診療時間が短くなるなどのことが起こってしまう。
診療時間も保育園に合わせ8時から17時30分にした。